

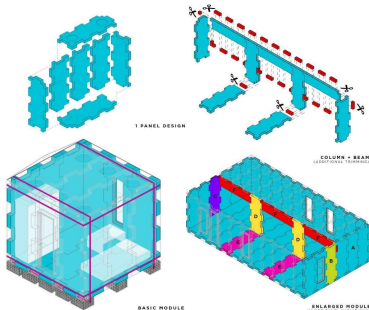
活動報告書 - 環境情報学部4年 豊福喬之 (71745766)

Building on Simple, Small-Scale Housing to Improve Living Conditions in Disaster-Affected Areas: —Support for the Earthquake-Affected Areas in Morocco—

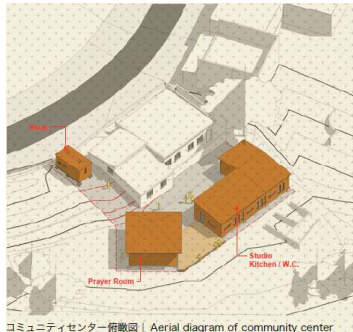
1. 背景

2023年9月8日、モロッコのマラケシュ=サフィ地方でM6.8の地震が発生し、山間部を中心に建物が倒壊した。死者は2946人、負傷者は5674人に上り、5万棟の住宅が被害を受けた。私たちは被災地支援の県チックプロジェクトを計画し、2024年10月に施工を開始した。

2. 研究目的



コンセプトダイアグラム



コミュニティ・ユニットの鳥瞰図

小林博人研究会では、F.I.T.ハウスというパネルを複製して構築する建物の研究を行っている。被災地の家族やコミュニティのために、迅速に建設可能で組み立てが簡単なパネルデザインを用いた建物を設計している。F.I.T.は、柔軟性（Flexible）、機転（Intelligent）、変形可能（Transformable）の頭文字を取ったものだ。

私たちは、F.I.T. Houseのコンセプトを適用して、被災地の地域住民向けのコミュニティユニットを建設する。地域住民にとって、宗教活動と仕事のスペースを確保することが最重要である。地域コミュニティを修復し、経済活動を再活性化させることを目指している。複数ある建設対象数地の村の中で、今回はOukaimedenに建設する。

提供するコミュニティ・ユニット施設は、主に昼間に女性が利用する公共施設である。テラスを有するト

1つのパネルで壁、床、天井を構成でき、柱や梁に加工することで建物規模の拡大が可能。建築経験がなくても、単純な組立て誰でも建設に参加できる。セルフビルドを通じて建物への所有意識を育むことができる。パネルの材料であるOSB板とスタイロフォームは世界中で製造されており、どこでもF.I.T.ハウスを建設できる。

イレ・小浄スペース)、礼拝スペース、工房、キッチン、ショップ、中庭を設置する。

多くの女性がカーペット製作などの技術を持っており、商品を販売する手段もある。クリエイティブな共同作業スペースやショップを設立し、商品を販売する。コミュニティの活気を取り戻し、彼女らが持続可能な収入を生み出すことができる。コミュニティの交流と経済の活性化の拠点として機能する。

3. 活動報告



土壁の取り壊し



防水膜の取り外し



解体したパネル



パネルの下部を切断

10月25日 モハメッド6世工科大学キャンパス内に2024年3月に試験的に建設したF.I.T.Houseの解体作業を始めた。解体したパネルはウケイムデンの敷地に運送する。解体作業では、街で必要な道具を調達した後、外壁や屋根の解体を行った。

10月27日 パネルの下部を切断した。今回新たに建築するF.I.T.Houseは長期的な利用を想定しており、基礎部分をコンクリートとしている。そのためコンクリートとの接続のために下部切断するという加工を行なった。



外壁解体後の様子



パネル解体



トラックからの荷卸し作業



荷卸したパネル

10月26日 防水幕と外壁をすべて取り外し、パネルを全て解体した。

10月28日 ウケイムデンの敷地へ移動し、モハメッド6世工科大学から運送したパネルをトラックから下ろし、敷地内へ運んだ。



整地作業1



整地作業2

10月29日 現地の村の住人、建設会社と共に敷地の整地を行い、敷地の水平と面積を正確に測定した。



パネルの組み立て1



パネルの組み立て2

11月1日 村の住人、建設会社の協力のもとショップ部分のパネルの組み立て



基礎の施工1



基礎の施工2

10月30日 ショップ部分の基礎コンクリートの施工を始めた。木枠を組み立て、建設会社とショップ部分の基礎コンクリートの打設を行った。



基礎とパネルの接合



防水膜の施工

11月2日 パネル完成後、村の住人と共に防水のため防水膜の施工行った。



コンクリート打設



土台の施工

10月31日 基礎コンクリート養生期間



屋根の施工



ファサードの施工

11月3日 屋根とファサードを木材を用いて施工した。



完成後の外観



完成後の内観

4. 今後の展望

本敷地では、2025年3月に礼拝堂、ワークスタジオ、そして清浄施設の建設を行う。その後、このアトラス山脈で被害を受けた別の3つの村でコミュニティセンターを建設する。各村では敷地調査や住民へのインタビューを実施し、それぞれの状況に適した設計を行う。合計4つのコミュニティセンターを建設後、私たちのモロッコでの被災地支援活動はひと段落する。その後、F.I.T.Houseプロジェクトはガザ地区やウクライナでの被災地支援活動へと続く。ポーランドでは、以前現地の大学と協力し建設したfl.THouseのプロトタイプを解体し、ウクライナから避難してきた人々への支援のため再活用する予定である。エジプトでは、近年避難してきているパレスチナ人が増加しており、彼らへの支援を行う。またガザ地区での被災地支援活動も計画している。

F.I.T.Houseプロジェクトはこれらの地域での活動を通して、国際的に被災地での支援を続けていく。